

TODAY'S MAKE- UP

今日のメイクは？

草場 妙子

1

ポイントメイクの楽しみ

メイクのなかでも、特に心ときめくのがポイントメイク。

リップやアイシャドウに色や光をのせるのは、ワクワクするものだ。

使ったことのない色も、つけ方次第で顔になじんだり、

自分の顔が新しい表情になったりする。

派手かな？ 似合わないかな？ なんて思わず、どんどんトライしてほしい。

ただし、ポイントはひとつだけに絞ることが大事。

リップもアイメイクもと欲張ると、逆に焦点がぼけてしまうし、

抜けのない頑張ったメイクになってしまう。

リップならリップだけと決めるほうが、ポイントが引き立つ。



Single colour



アディクションはパウダーの単色アイシャドウが99色もある。私が持っているのは、ベージュやグレー系の色が多い。似たような色でも、微妙な差が楽しい。

アイシャドウは単色使いがいい

アイシャドウというと、パレットタイプを思い浮かべる人が多いだろうか。ところが結局使うのは1色だけということが多く、色が混ざりあって汚くなってしまいうのもイヤ。そもそもパレットタイプは、グラデーション使いのために作られているものが多い。でも、グラデーションってテクニックがいるし、カジュアルに楽しみにくい。

アイシャドウはまぶたを彩るためのものだと考えると、単色でいい。塗るのも簡単だし、今っぽい顔になれる。ベージュやブロンズ、ブラウンなど、影になる色だと、目元に深みが生まれるし、アイラインなしで目元を強調することもできる。なにより色を複雑に使わない分、質感に意識がいく。特に好きなのは、まぶたに湿度や輝きを感じるようなアイシャドウ。それには、最近増えてきたクリームタイプがいい。ラメやパールにはない独特のツヤが好みだし、指で塗れるから、仕上がりが適度にラフになって抜け感が出る。伸ばしやすいし、重ねることもできるので、単色でも濃淡のグラデーションがつけられる。

一方、従来のパウダータイプは、長時間くずれにくいという利点がある。ただし付属のチップを使うと、色がのりすぎてぼかしくくなるので、できればブラシを使って。色によっては指を使うのもアリ。

Tools for eyes



二重の幅にふんわり塗るなら丸みのある平筆を、目のキワに細くライン状に塗るなら、コシがある小さな平筆を使う。

アイシャドウは塗り方次第

アイシャドウは、顔立ちや目の形によって、似合う色や似合う場所が違う。同じ色でも塗る場所によって、腫れぼったく見えたり、くすんで見えたりすることもある。二重の幅だけに塗るほうが自然なこともあれば、まぶた全体に塗るほうが似合うこともある。まぶたの上だけに塗っているときは、くすんで見ると敬遠していた色が、下まつ毛のキワにも塗ることで、顔になじむこともある。だから、いつも同じ塗り方をするのはもったいないし、似合う色を決めてかかるのもナンセンス。ぜひ手持ちのアイシャドウを使って、いろいろと試してみてほしい。

試すときはどんな色も、まずは二重の幅に塗ってみる。二重じゃない人は、眼球の上までを目安にして。それから、目を開けたときにどう見えるかチェックしてみる。次に、だんだんと塗る範囲を広げていく。色みが控えめなら、眉の下まで塗ってみるのもあり。また、重ね付けて発色させたり、目のキワにライン状に塗ってみたりするのもいい。

予想もしていなかった意外な色が似合うこともあるから、固定観念を捨ててチャレンジしてほしい。

下まぶたをメイクする → p.31



左 下まぶたをメイクする → p.31

上まぶたと同じベージュブラウンのアイシャドウを、細い平筆を使い、下まつ毛の目尻側のキワにライン状にのせて。綿棒でぼかすと、より自然に仕上がる。

右 カラーメイクのポイント使い
→ p.33

ピンクのリキッドアイライナーで、目尻にさりげないラインを。リップはナチュラルな色にすることで、アイラインが引き立つ。



Today's make-up

モノトーンのコーディネートのポイントに、マットなボルドー色のリップを。深い赤はハードルが高く思えるかもしれないが、つけてみると明るい赤より意外となじむもの。ネイルもリップにリンクさせて同色に。眉をさりげなく整え、目元はマスカラのみ。肌はパウダーでツヤを少し抑えて、きりっと落ち着いた格好いい印象に。



Today's make-up

古着のワンピースの赤にリンクさせて、ピンクのアイブロウパウダーで眉に赤みをプラス。眉毛のない部分には、同じアイブロウパウダーのバレットに入っているブラウンを使い、ピンクの見せ方を調整。ポイントが眉なので、リップはパージュピンクでナチュラルに。

4

よい土台があつてこそ

肌の調子が悪いだけで、メイクをする気にならない気持ち、
きっとみんな経験があるはず。肌のアラを隠すことばかりを意識すると、

メイクは楽しくなくなってしまう。逆に健康的にツヤのある肌なら、

リップに色を差すだけで表情がぱっと輝いて見える。

いろいろなポイントメイクに挑戦したくなる。

それなのに、スキンケアはおざなりに済ませていないだろうか。

肌の調子が違えば、スキンケアだって変わってくる。

メイクと同じで正解はひとつじゃないし、毎日同じじゃなくていい。

手間をかければいいというわけでもないけれど、

意識を高めれば肌は確実に応えてくれる。

